

Ⅱ 施 策

第二次富士市教育振興基本計画で掲げる方針に基づき行う本年度の取組について記載しています。

【方針1】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【方針2】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【方針3】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

【方針1】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱1〕 新たな時代に対応する取組の推進

本年度は、第二次富士市教育振興基本計画（令和4年～令和13年度）に基づく教育行政の実施2年目となります。今日の教育を取り巻く環境においては、急速な情報化やAI技術の飛躍的な発展による Society5.0¹時代の到来や、少子化による児童生徒数の減少、誰一人取り残さない教育の実現を目指した教育機会の確保等、適切に対応すべき喫緊の課題が山積しています。また、変化の激しい時代を生き抜く子どもたちには、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。そのため、多様な他者との出会いや、価値観や考え方交流を通して、新たな価値を創造していく力を身に付ける教育が、必要不可欠であります。

これらの教育を取り巻く環境の変化や、求められる資質・能力の育成に対応し、子どもたちにとって豊かな学びに直結する、新たな時代に対応する教育の土台ともいべき基盤づくりを推進していきます。

GIGA スクール構想²を核とした個別最適な学びの環境整備については、昨年度の取組実績を基に、より効果的な ICT の活用を、小・中学校の教職員と一緒に進めます。また、次期 ICT 環境の整備に関して、検討を開始してまいります。

小中一貫教育³の推進においては、施設一体型の「富士川第二小中一貫校 松野学園」の取組内容やその成果をはじめ、その他の各中学校区における取組事例等を、連携推進員研修会等の場を活用して広報し、令和6年度の小中一貫教育の全校実施を支援していきます。また、小中一貫教育の全校実施に向けて、富士市の方向性やこれまでの取組をまとめた冊子及びリーフレットを発行します。さらに、園小連携⁴をよりよく図るため、研究指定校や園小連携部会における取組を通じて、接続期における支援策等について研究を進めます。

学校と地域の連携・協働に関する取組では、新たに中学校7校に学校運営協議会を設置し、市内全26小学校と9中学校をコミュニティ・スクールとします。保護者や地域住民の声を積極的に生かして、特色ある「地域とともにある学校づくり」を一層推進します。

¹ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

² 児童生徒1人1台端末、及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるための構想。

³ 小・中学校同士で情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小・中学校で目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行う教育。

⁴ 幼稚園・保育園・認定こども園等の就学前教育・保育機関と、小学校による、子どもの一貫した教育を進めるための連携。

各施策の重点事業（☆新規事業）
<p>【施策①】 Society5.0に対応する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による研修やアフター5研修⁵、ICT支援員による校内研修等において、教職員の資質能力向上の機会、及び教職員同士の情報交換の時間を確保する。 ・指導主事訪問等を通してICTを効果的に活用した授業の視点を示し、各校での実践や授業改善につなげる。 <p>☆次期ICT環境整備に関する検討を開始する。</p>
<p>【指標に関する取組】 多様なニーズに対応した情報教育研修会の充実 【指標】教員のICT活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合 【R4実績/ R5目標/R8目標】 83.1%/85%/100%</p>
<p>【施策②】 学びの連続性を意識した教育の推進</p> <p>☆令和6年度から始まる市内全小中学校における小中一貫教育の方向性や、これまでの取組をまとめた冊子及びリーフレットを発行し、各中学校区の小中一貫教育推進を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育先行実施校である富士川第二小中一貫校松野学園における取組内容やその成果を広報し、各中学校区の小中一貫教育推進につなげる。 ・園小連携をよりよく図るため、研究指定校や園小連携部会における取組を通じて、接続期における支援策等について研究を進める。
<p>【指標に関する取組】 教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実 【指標】小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合 【R4実績/ R5目標/R8目標】 100%/100%/100%</p>
<p>【施策③】 地域とともにある学校づくり</p> <p>☆中学校7校を新たにコミュニティ・スクールに指定し、全26小学校と9中学校のコミュニティ・スクールを中心に、地域とのつながりの強化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSディレクター定例会を開催し、協議会の円滑な運営や地域と学校の連携・協働の在り方について研究を進め、効果の可視化に努めていく。 ・市立高校学校運営協議会を開催し、地域住民や保護者等の声を学校運営に活かす。 ・市立高校では、「人工芝で遊ぼう」や「多世代交流サッカー」など学校施設を活用した地域交流事業を行う。
<p>【指標に関する取組】 コミュニティ・スクールの充実 【指標】保護者や地域の人との協働による活動を「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合 小学校【R4実績/ R5目標/R8目標】 92.5%/96%/100% 中学校【R4実績/ R5目標/R8目標】 68.7%/70%/100%</p>
<p>その他の事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員研修（今日的な課題研究、学校・教育施設等の視察）の実施 ・教育委員会広聴事業「ふじの教育懇談会」の実施
<p>☆リニューアルする青少年体験事業の体制整備（詳細はP16・P18）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の計画的な保存・活用の推進

⁵ 急速な社会変化と教職員のニーズに対応する自主参加型研修。

【施策の柱2】 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

私たちを取り巻く社会情勢や教育環境は、コロナ禍の影響や急速な情報化、技術進歩の中、より良い社会や学びを他者との協働の中で創り出す時代へと移り変わってきました。そのような中、誰もが未来を拓く力を身に付けられる、誰一人取り残さない社会を目指した質の高い教育が求められています。

そこで、SDGs⁶未来都市である本市では、輝く未来を拓く人を育むためのESD⁷の推進を図るため、教職員研修等において、各教科主任者会等の研修会におけるESD実践の情報共有や、より良い授業実践のための教材等の研究を行っていきます。また、市立高校2年次後半で実施する課題解決型学習「究タイム⁸」において、生徒一人一人がSDGsに関連付けたテーマを設定して、課題解決に取り組む授業を行い、変化の激しい社会を生き抜く力を育成していきます。

特別支援学級や特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する通常学級にサポート員を計画的に配置するとともに、「特別支援教育センター」を拠点に、子どもや保護者の困り感に寄り添った早期支援、早期対応を行っていきます。さらに、専門研修の実施及び専門職⁹や関係機関との連携、巡回学習相談の充実等により、子ども一人一人の特性に応じた教育的支援を行います。

さらに、多様性を大切にする社会意識の高まりや、外国人児童生徒数の増加に伴い、外国人児童生徒の在籍校での支援を充実させるとともに、国際教室を増設し、個に応じたきめ細かい日本語指導や教科指導を行っていきます。

近年、困難を抱える子どもや青少年の数は増加の一途をたどっています。その要因も、コロナ禍の影響や社会的な人とのつながりの希薄化など、多岐にわたっています。そこで、様々な悩み事の解消に向けて「ほっとデジタル相談・ふじ」の開設など相談業務の充実を図ったり、児童生徒が過ごしやすい「ステップスクール・ふじ」の運営を心掛けたりするなど、これからも困難を抱える子どもや青少年、一人ひとりの思いを十分に尊重し、寄り添いながら、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指していけるよう、個に応じた適切で細やかな支援をしていきます。

加えて、教育機会の確保や孤立の解消、社会的自立等を図り、子どもや青少年が誰一人取り残されずに成長・活躍していけるよう、「第二次富士市子ども・若者育成支援計画¹⁰」に基づく取組を推進します。

各施策の重点事業（☆新規事業）

【施策①】SDGs達成に向けた取組の推進

- ・各教科等におけるESDの推進を図る。
- ・研修会等において各教科等におけるESD実践の情報共有、研修の機会を確保する。
- ・学校と地域の連携強化を推進する。
- ・学校図書館におけるSDGs関連の資料を整備する。
- ・市立高校2年次後半の課題解決型学習「究タイム」において、生徒一人一人がSDGsに関連付けたテーマを設定して、課題解決に取り組む。
- ・市立高校の地域交流事業として、聴覚に障害のある子どもたちにスポーツに親しむ機会を提供するために、ボランティア生徒と一緒にDefキッズサッカー教室を開催する。

【指標に関する取組】

SDGsの達成に向けた教育活動の充実

【指標】「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合

小学校【R4実績/R5目標/R8目標】47.2%/60%/80%

中学校【R4実績/R5目標/R8目標】36.6%/50%/70%

⁶ SDGsとは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の目標。

⁷ ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」のこと。

⁸ 富士市立高等学校が独自に設定している教育活動。3年間を通じて、探究的な力やチームで協議する姿を身に付ける学習。

⁹ 心理判定員や作業療法士、ことばの相談員、社会福祉相談員、特別支援専門相談員、特別支援教育学習相談員など。

¹⁰ 国や県の計画を参酌しつつ、子ども・若者が誰ひとり取り残されず、社会の何に安心できる居場所を持ちながら成長・活躍していけるよう、次代を担う子ども・若者の育成や支援を行うため、令和4年3月に策定された。

<p>【施策②】 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育学習相談員¹¹を配置し、通常学級に在籍する特別に支援が必要な児童生徒の特性に応じた教育的支援の充実を図る。 ・ 特別支援サポート員による個別支援体制の充実を図る。 ・ 特別支援教育センターでの、小1・小2教室による支援や、低学年における読み書き支援の充実を図る。 ・ 特別支援学級の新設（自閉・情緒学級：元吉原小学校、吉原第三中学校、田子浦中学校） 再設（自閉・情緒学級：富士川第一中学校）
<p>【指標に関する取組】 <u>特別支援サポート員の研修の充実</u> 【指標】 特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値） 【R4実績/ R5目標/R8目標】 3.5/3.9/4.1</p>
<p>【施策③】 外国人等の児童生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人児童生徒が安心して学校生活を送り、中学校卒業後の進路選択に希望が持てるよう、特に日本語指導の必要な児童生徒への支援の充実を図る。 ・ 初期支援、訪問支援や国際教室での支援の質を向上させるため、支援員の研修を進める。 <p>☆新規国際教室を田子浦小に週2日開設し、支援を希望する児童生徒に個別指導を行う。</p>
<p>【指標に関する取組】 <u>個に応じた日本語指導、学習指導の充実</u> 【指標】 「特別の教育課程」実施の割合 【R4実績/ R5目標/R8目標】 55.1%/60%/70%</p>
<p>【施策④】 学びのセーフティネットの充実</p> <p>☆「ほっとデジタル相談・ふじ」の開設による相談業務の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ステップスクール・ふじ」において、様々な理由により学校に行けない子どもたちや登校しにくい子どもたちに、時間と場所を提供し、集団生活やカウンセリングを通して、社会的に自立していくための支援を行う。
<p>【指標に関する取組】 <u>「ステップスクール・ふじ」の相談業務や運営の充実</u> 【指標】 ステップスクール・ふじを利用した中学3年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合 【R4実績/ R5目標/R8目標】 100%/100%/100%</p>
<p>その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリング講座、保護者教室、合同相談会の開催 ・ 富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営 ・ 困難を抱える若者やその家族を支援する人材「若者サポーター」の育成 ・ 全ての市民への図書貸出サービス機会の充実

¹¹ 子ども一人一人のニーズを把握し、必要とする支援の内容と方法を明らかにするために、担任、特別支援教育コーディネーター、保護者など、子どもの支援を実施する者の相談を受けたり、助言したりする役割を担う。

【施策の柱3】 安全・安心で充実した教育環境の提供

現在、建築後30年が経過する学校施設は全体の7割を占めていることから、老朽化への対応が喫緊の課題となっています。

このような状況から、財政負担を平準化し、中長期的な維持管理費の削減を図るため、「富士市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化改修を確実に進めているところであり、本年度も引き続き、校舎の屋上防水、外壁改修、トイレ改修、校舎内部改修及び屋内運動場のリニューアル改修などを進めていきます。また、誰もが安全に安心して学校施設を利用できるように、段差解消のためのスロープ整備やバリアフリートイレの設置なども進めていくとともに、児童生徒の学習環境をより良くするために、令和元年度に整備した普通教室への空調整備に続き、特別教室（理科室・図書室・音楽室・美術室）への空調整備を3年間の計画で進めていきます。

学校規模の適正化を目指して実施した大淵第二小学校の大淵第一小学校への編入統合については、円滑な学校運営により、子どものより豊かな学びの保障につなげるとともに、編入統合に伴う児童や保護者への通学支援として、スクールタクシーを運行します。また、令和6年度の吉原東中学校の吉原第三中学校への編入統合に向けた教育活動に関する支援を実施するとともに、編入統合のための施設準備として、増加するクラス数に応じた普通学級・特別支援学級の教室や理科室の増設、給食棟の改修及び編入統合により遠方から自転車で通学することになる生徒のための駐輪場整備を行います。

さらに、学校給食費の公会計化を実施し、各学校の会計処理の透明性の確保や、保護者の利便性の向上を図ってまいります。

各施策の重点事業（☆新規事業）	
【施策①】安全・安心な学校施設整備の充実	
☆3か年計画により、小中学校の特別教室への空調設備を設置する。 ・避難場所である学校の屋内運動場にバリアフリートイレの設置をする。 ・児童生徒用トイレの洋式化、乾式化、非接触型水栓の設置等の改修を行う。	
【指標に関する取組】 <u>トイレの洋式化やバリアフリートイレの設置推進</u>	
【指標】バリアフリートイレの設置率 【R4実績/ R5目標/R8目標】61.9%/65%/80%	
【施策②】より良い教育環境の維持・整備	
☆編入統合の準備として、吉原第三中学校の校舎の教室・給食棟の改修や駐輪場整備を行う。 ・学校の適正規模・適正配置について検討を行う。 ☆子どものより豊かな学びを保障するために、大淵第二小学校を大淵第一小学校に編入統合し、学校規模の適正化を実施するとともに、子どもたちへの通学支援（スクールタクシー）を実施する。 ☆吉原東中学校の編入統合に向けた教育活動への支援を実施する。 ・校舎や屋内運動場の屋上・屋根防水や外壁改修を行う。 ・教室の床・壁・天井などの内部改修を行う。	
【指標に関する取組】 <u>学校施設ごとの長寿命化計画に基づいた施設の維持改修</u>	
【指標】長寿命化計画の進捗率 【R4実績/ R5目標/R8目標】24.5%/47%/100%	
その他の事業	
☆学校給食費の公会計化による、会計処理の透明性の確保、及び保護者の利便性の向上	